

スタッフ紹介

春秋座には、いろいろな人が出入りしています。ご紹介したほかにも、舞台のベテラン達が立ち働いています。



質問 ①仕事の面白いところ②つらいところ③趣味④特技⑤好きな食べ物⑥春秋座の公演で印象に残っているもの



武邑 清香 たけむらさやか / 劇場企画運営室 職員

1979年9月20日 京都府京都市生まれ、京都造形芸術大学芸術学卒。在学中から春秋座の学生アルバイトとして関わり、2002年春から職員に。卒業論文のテーマは、歌舞伎の衣装について。事務所内のもちつき大会なども企画、人を楽しませるのが大好き。手製弁当がエネルギーの素。

①出会い②靴ずれ③食事④ハイテンション⑤カレー、出し巻き、チーズ、あなご⑥前進座公演『三人吉三白浪』



中山 彩 なかやまあや / 劇場企画運営室 職員

1976年10月23日 埼玉県新座市生まれ、京都造形芸術大学美術・工芸学科日本画卒。2001年11月より春秋座勤務。主に春秋座劇場内の管理、80人近い学生アルバイト達への連絡を受け持っています。劇場で働きだしてから、舞台の面白さを知り、いまやオペラ・文楽・西郷輝彦ショーまで、趣味のジャンルを増やしつつある今日のごろ

①様々なジャンルの舞台に触れられること②何時に帰れるか分からない日があること③緑の中を歩いて実や花を摘むこと④おいしそうに盛り付けること⑤野菜スープ⑥トランシルヴァニア交響楽団。音が体にしみてきた。



西川 真由実 にしかわまゆみ / 劇場企画運営室 職員

1972年7月28日 兵庫県西宮市生まれ、京都造形芸術大学日本画卒。卒業以来、図書館・日本画研究室などで働き2001年10月より春秋座勤務。主に担当は友の会会報の編集など友の会関連。当日券の販売などでホワイエにすることが多い。

①いろいろな人と会える②お弁当③雨の日に本を読むこと④どこでも眠れること⑤穀物⑥文楽『仮名手本忠臣蔵』、亀治郎の会、チェコアニメ週間



松本 寛子 まつもとひろこ / 舞台技術スタッフ (from PAC)

9月4日京都府生まれ、京都芸術短期大学インテリア卒。照明担当。卒業後、アルバイトなどを経て、PAC (パシフィックアートセンター) に就職。劇場の完成とともに、再び瓜生山に通うことになる。窓のない舞台事務所を、彼女が明るく照らしています。2002年11月からしばらくの間、お休み中。勤務地：調光室

①いろいろな人と知り合えること②朝が早かったり夜遅かったりすること③自然観察④平行感覚を要するものならまかせて⑤桃、バームクーヘン、カステラ⑥亀治郎の会



神家 洋志郎 こうげようしろう / 舞台技術スタッフ (from PAC)

8月31日大阪生まれ、大阪育ち。音響担当。この世界で18年。春秋座での初仕事はケーブル作り。各公演の仕込み時には、彼のマイクチェックの音が波のように響き渡る。動物 (特に馬) をこよなく愛し、機材に囲まれた仕事を離れば、心は北海道 (または淀?) へ…。勤務地：音響室

②二日酔いの時!これはキツイ!!③ブラブラ④三連複⑤清涼アルコール飲料



皿袋 誠路 さらぶくろせいじ / 舞台技術スタッフ (from PAC)

2月18日大阪生まれ、大阪市東淀川区在住。照明担当。松本さんのお休みの間、春秋座の照明を取り仕切る。以前から公演の時にはお手伝いしてくれていました。この世界で19年。もちろん他の舞台も様々手がけている。維新派の犬島公演でメンバーと1ヶ月共に暮らしたことが印象深かったとか。カブト虫も一杯とれたらしい。勤務地：調光室

①芝居で完全に気持ちが入り込んだ時②真冬の野外での仕事③④自転車⑤みかん⑥『第一回 演じる高校生』の大阪市立工芸高校の作品 (「青の予感」ですね。)



熊又 洋 くままたひろし / 舞台技術スタッフ (from PAC)

1月5日大阪生まれ、京都在住。大道具担当。春秋座が出来た時から緞帳の上げ下げも舞台の盆をまわすのもこの方。常駐として事務所にいるので、学生たちも何かとお世話になっているはず。最初に来て、最後に帰る。名前を知らなくても、姿が焼きついている人は多いのでは…?勤務地：舞台上

①出演者の裏の顔が見れること②時間に追われること③夢の中④24時間寝ること⑤ふなずし以外⑥前進座公演『三人吉三白浪』、茂山狂言会



橋 市郎 たちばないちろう / 劇場企画運営室長

東京都中央区生まれ、東京育ち。日劇ミュージカルのプロデュースをはじめ、舞台・劇場に関わって40年。誕生日が2回来る男。本学副学長である市川猿之助氏によって京都・北白川へ呼び寄せられ、春秋座がこの地に建つ前から関わる。経験に培われた直感で、春秋座とスタッフを導く。勤務地：人間館A棟312または春秋座内。

①お客様の反応②お客様が入らないこと③競馬・オペラ鑑賞④孫と遊ぶこと。⑤ケーキセット (今は禁ケーキ中)⑥柿落し公演、チェコ少年合唱団 (ポニ・プエリ) サマーコンサート、亀治郎の会

編集後記

友の会懇親会のお知らせと共にお送りした、春秋座古典落語の会「らくごっこ」の情報に、日時の誤りがありました。予定に入れていたのに来られなかったという方もいらしたかもしれません。申し訳ありませんでした。確認することの大切さを痛感・・・。

編集
京都芸術劇場
企画運営室
デザイン
福井 瑞穂
発行月
西川 真由実
2003年2月

京都芸術劇場春秋座友の会季刊誌

春秋

KOYOMI

SINCE 2002 AUGUST

第3号 2003年2,3,4月

特集 ミュージカル

アデル

4/26(土)・4/27(日)

わらび座公演 脚本=杉本義法 演出=中村喈夫
音楽=甲斐正人 美術=朝倉 摂



京都芸術劇場
春秋座

特集

アテルイ

—ミュージカル北の耀星—

原作○高橋克彦「火怨 北の耀星アテルイ」

アテルイ（阿弖流為）とは、8世紀から9世紀にかけて現在の岩手県胆沢地方に実在した人物。「水陸万頃すゐりくばんけいの地」と呼ばれる肥沃な土地である胆沢を守るため、アテルイは村落をまとめ朝廷軍と戦った。今公演は、岩手県出身の作家高橋克彦氏による「火怨 北の耀星アテルイ」をもとにした、ミュージカル。春秋座を皮切りに全国公演へスタートします。

—ミュージカル「アテルイ」公演の成功を祈る—

京都 清水寺貫主 森 清範
(平成13年執筆)

本年めでたく「わらび座」が創立50周年を迎えるにあたり、岩手県の作家・高橋克彦氏の『火怨』を脚色したミュージカル「北の耀星 アテルイ」を8月8日を初日として一年間、「たざわこ芸術村」劇場で定期公演されます。そして平成14年は「アテルイ没後1200」の記念の年にあたり、岩手・宮城両県での公演、さらに翌15年は一年間をかけて北海道から九州まで全国公演が予定されており、熱烈に歓迎いたすものであります。

さて、ここに私が一文を呈しますご縁は、いわゆる東北の「蝦夷」と戦った坂上田村麻呂公が当山の創建にかかわる大本願であったからであります。田村麻呂公は、宝亀11年(780年)妻室の安産を祈願して参詣し、妻室とともに霊験あたらかな清水の舞台の大慈悲を信じ篤い観音帰依者となったのであります。

一方、平安遷都を実行した桓武天皇は東国経略をすすめました、高い独自の文化を持ち勇敢な彼らに中央政府軍は大変苦戦を続け、ついに延暦20年(801年)坂上田村麻呂公が大将軍となり四万の兵を率いて出兵、激戦を繰り返す中で、武闘第一主義の無理を看取して宣撫と民生に力を注ぐ政策をとり、アテルイ側もそれに帰順したために、田村麻呂公は、「蝦夷」の大将アテルイと副将モレらを同伴して京都に帰り、朝廷に二人の人物・武勇を惜しんで助命と東北経営に登用すべく嘆願をいたしました、残念ながら受け入れられず、両雄は非業の最期をとげたのであります。そこで、田村麻呂公は、この二人の霊と敵味方の大勢の御霊を清水寺観音御宝前にその誠を呈し祈念を重ねたのであります。平成6年、平安遷都1200年を記念し、水沢・江刺一帯の方々と関西胆江同郷の人々により、当山南苑の聖地に「アテルイ・モレ顕彰碑」が敵味方の恩讐と1200年の時間を超えて建立されました。まさに鎮魂の碑であります。私たちは、この「アテルイ」公演を通して、これまでの中央からしかみてこられなかった歴史観を見直し、現地から文化や人間性を発信する意味を深く汲みとらなくてはならない。そして歴史は単に過去の記述のみではなく、そこに生きた人間を彷彿とさせ、未来に向かっての創造的生き方を共に学ばなければならないと考えます。

最後に、ミュージカル「アテルイ」の全国公演にあたり、より多くの方々に参観いただきますよう切にご成功を祈念申し上げます。合掌。

—京都芸術劇場 春秋座公演趣旨—

呼びかけ人代表 京都大学名誉教授 上田 正昭

このたび、京都各地で上演されるわらび座ミュージカル「アテルイ・北の耀星」は、高橋克彦氏の著作「火怨」を原作とした東北の「蝦夷」英雄アテルイの生涯を描いたものです。

一聞ただけでは京都と何の関係があるのか、と疑問を抱かれるかもしれません。京都はむしろアテルイと戦った敵ではないか、と。しかし、京都にはアテルイと対決し、同時にそこを共有した坂上田村麻呂の土地であり、坂上田村麻呂が発願した清水寺があります。

アテルイのこことは何か。それは自分が暮らす土地を愛する心、そして人間を愛する心です。それを守るために立ち上がり、戦い抜いたアテルイに対して田村麻呂はうわべでは「敵」かもしれません。しかし彼は誰よりもアテルイを理解した人物でした。アテルイの捨て身の戦いの真意を理解し、アテルイの人格を高く評価した田村麻呂の心も、ミュージカル「アテルイ」の大切なテーマになっています。

それにもかかわらず、いつしかアテルイは大和に刃向かった悪者「悪路王」とみなされました。そのような見方は「蝦夷」の地を辺境とみなし、「蝦夷」の人々を蛮人とみなす誤った中央史観のゆがみと重なります。アテルイに対する誤れる歴史認識を問いただして、朝鮮半島南部からの渡来氏族東の漢氏の子孫であった坂上田村麻呂の実像を再発見することは、伝統と創生の町である京都にとっても、きわめて意義深い試みと実感します。

《あらすじ》

黄金を求め大和朝廷は蝦夷(えみし)をまつろわぬ民として制圧を企てる。度重なる侵攻に、蝦夷は人間の誇りをかけて立ち上がる。その若きリーダーがアテルイだった。

大和軍との激しいたたかいが続く中、アテルイは今では征夷大将軍となった幼なじみの田村麻呂と岩手山の麓で一騎打ちの場面を迎える。ふとよみがえる遠い記憶。愛瀧詩(エミシとは母の愛のような広々とした大河の詩を意味する)と語り合った日々を。

蝦夷の慟哭のような岩手山大噴火。敗走する仲間たち。その姿に、アテルイはついに決断する。

○脚本・杉山義法、演出・中村喈夫、作曲・甲斐正人、美術・朝倉 以上 資料提供：わらび座



公演スケジュール

3/8
(土)
15:00~

和太鼓 恵 三月卒業公演

入場無料

京都造形芸術大学内で活動する和太鼓 恵の自主公演。様々なシーンで活躍中の高木克美先生の指導の下、日々稽古に励んだ、今年度卒業生を含む総勢48名のメンバーが、日本各地の伝統曲から創作曲まで、和太鼓の色々な表情をお届けします。今公演で初披露の新作も。「太鼓を叩くのが楽しくって仕方がない！」彼らが紡ぎ出す、体の芯まで熱くなる響きに耳を傾けてみませんか？



3/28
(金)
19:30~

舞台芸術研究センター上演実験シリーズvol.8「門 gate」

2/17(月) 10:00~前売開始 前売/一般3,000円 学生2,000円(当日500円増し)

太田省吾(劇作家・演出家)のコンセプト「門」のもと、日韓の伝統系・現代系の音楽家とダンサーが競演。韓国のダンスに日本の音楽、日本のダンスに韓国の音楽…互いの身体が出会う時、その中に潜む固有の身体性・音楽性がどのように現れるのか？桐原淳行・K&Kプロジェクトの創作した門オブジェの屹立する舞台上で、演者の身体はいかに覚醒するのだろうか？様々な領域で活動する表現者達による、二日限りの交感と創造。この門を通るとき、いかなる〈存在の味〉に触れることができるのか。——観世榮夫の能舞と韓国の伝統楽器ヘグム、フリージャズのアルトサックスとの共演はラストの見所。お見逃しなく！



4/19
(土)
14:00~

「小猿の会の会」10周年記念公演

チケット発売中 一般 1,000円 学生 500円

京都造形芸大の名物・小猿の会。市川猿之助先生の歌舞伎授業をきっかけに生まれたこの会が、猿之助一門の振付・指導もしている藤間吉蔵師匠の指導の下、このたび10周年を迎えることとなりました。年に一度の発表会も、記念すべき10回目。師匠・OB・三味線部も招き、ついに春秋座という大舞台を使つての公演が実現します。イマドキの芸大生と古典との出逢い、観ないテは、ありませんよ。

演目：第一部/「七福神」「船揃」「流星」ほか 第二部/「石橋」「正札附草摺引」「手習子」「賤の小田巻」ほか。当日、映像・舞台芸術学科助教授である藤間吉蔵先生と芸術文化学科助教授の小林昌廣先生との対談もあります。



4/26
(土)
18:30~

ミュージカル「アテルイ」

チケット発売中 一般前売 4,500円(会員前売 4,000円) 当日 5,000円

東北・秋田に根付いた人・芸能・環境をとりこんで、パワフルな活動を続けるわらび座。2001年8月地元・秋田から始まった「アテルイ」公演は、この春秋座を皮切りに、日本全国公演をスタートさせます。伝統芸能を叩き込まれ、鍛えあげられた役者たちの演技。和太鼓のライブ演奏によるドラマティックな舞台。今注目浴びている東北古代史の世界が、目の前に…！

脚本=杉本義法 演出=中村喈夫 音楽=甲斐正人 美術=朝倉 撰



公開製作発表

ミュージカル「アテルイ」の春秋座公演に先立ちまして、報道関係各社へ向けての製作発表を行います。一般の方にも参加していただける公開製作発表という形をとり、当日は出演者も駆けつけて歌の披露もいたします。興味のある方はどうぞお越しください。

日時 3月31日(月) 14:00~15:00
場所 京都芸術劇場「春秋座」
出席者 上田 正昭
(京都大学名誉教授、「アテルイ」公演呼びかけ人代表)
中村 喈夫(演出家)
渡辺 澄子(プロデューサー)
出演者 安達 和平(アテルイ)
丸山 有子(佳奈)
岡村 雄平(田村麻呂)

入場無料



チケット購入方法

チケットお求めの方は、劇場企画運営室 NA312(京都造形芸術大学 人間館A棟3F)までお立ち寄り下さい。

お電話でのご予約も承ります。その際、友の会会員である事を必ずお伝え下さい。遠方にお住まいの方には、現金書留でのお支払いをご案内しておりましたが、この度郵便振替口座の準備が整いましたので、今後は郵便局からのご入金も可能です。ご利用になられる方は、チケットお申込みの際にお知らせ下さい。

京都芸術劇場企画運営室
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
TEL 075-791-8240 FAX 075-791-9438

春秋座

2003年2月～5月公演予定表

日	催し物	時間	内容	問合せ先	チケット発売 ()内は会員前売料金
◇2月					
2/22 土	京都造形芸術大学連続公開講座 「子ども芸術大学」の思想を世に問う 第四回「子どもと自然と子ども芸術大学」	14:00～16:00	基調講演「身近ないのちに学ぶ」 梶田真章 対談「子どもと自然と子ども芸術大学」 梶田真章・原田憲一	京都造形芸術大学 子ども芸術大学準備室 TEL/075-791-8134	無料
◇3月					
3/2 日	第7回 左京区文化フェスティバル	13:00開演	日頃から自主的な文化・芸術活動をされている区民の団体・グループが活動の成果を披露する。また区内に伝承されている伝統芸能などを紹介する。	左京区役所 地域振興課 TEL/075-771-4211	無料
3/8 土	和太鼓 恵 三月卒業公演	15:00開演	京都造形芸術大学内で活動する(和太鼓 恵)の自主公演。総勢48名のメンバーが、日本各地の伝統曲から、創作曲まで、和太鼓の色々な表情をお届けします。	和太鼓研究センター TEL/075-791-9145 健康科学センター TEL/075-791-8926	無料
3/28 金	上演実験シリーズvol. 8 ★ 『門 gate』	19:30開演	作品・空間コンセプト＝太田省吾 出演：キム・ウニ(コンテンポラリーダンス)、 パン・ヒョネ(コンテンポラリーダンス)、 AYUO(作曲・ギター・ブザーキ・電子音)、 高田和子(三絃)、長須与佳(薩摩琵琶・尺八)、 観世榮夫(能)、山田せつ子(コンテンポラリーダンス)、 カン・ウニル(ヘグム)、 カン・テファン(フルトサクソ)、 砂連尾理十寺田みさこ(コンテンポラリーダンス)	京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター TEL/075-791-9437	2月17日(月)前売開始 前売 一般3,000円 学生2,000円 当日 一般3,500円 学生2,500円
3/29 土		14:00開演			
◇4月					
4/13 日	伝統芸能を楽しむ会 「檜の会」	12:00開演	第1部 邦楽・邦舞発表会「東峯会」 第2部 「檜の会」 津軽三味線 2代目高橋竹山 狂言 丸石やすし・松本薫・網谷正美 日舞 花柳寛十郎・花柳双喜美 邦楽連中 ほか	檜の会 TEL/075-551-3653	無料
4/19 土	「小猿の会の会」 10周年記念公演	14:00開演	京都造形芸術大学で活動する日本舞踊サークルの発表公演。10周年を記念して師匠・OB・同大学三味線部を招いてのプログラム。 演目：「正札附草摺引」「手習子」「賤の小田巻」ほか	劇場企画運営室 TEL/075-791-8240 京都造形芸術大学 「小猿の会」 kyotozoukei.osarunokai@hotmail.com	発売中 一般1,000円 学生 500円
4/26 土	ミュージカル「アテルイ」	18:30開演	わらび座創立50周年記念作品として、中村時夫を演出に招き、甲斐正人の音楽、朝倉撰の装置・美術で共同制作したミュージカル。2001年8月から2004年3月まで500回のロングラン・ミュージカルです。	京都造形芸術大学 劇場企画運営室 TEL/075-791-8240 (株)わらび座 関西事務所 TEL/06-6864-9600	発売中 当日 一般 5,000円 前売 一般 4,500円(4,000円) 造形大生 1,500円
4/27 日		14:00開演			
◇5月					
5/18 日	楽劇「大田楽」	13:30開演	中世、京の都を中心に一世を風靡しながら消滅してしまった「田楽」。その田楽の演劇としてのエネルギーはそのままに、日本各地の伝統芸能や音楽を盛り込み、さらには西洋の動き、音楽も取り入れてデフォルメし、現代に生きる演劇として新しく作り上げたオリジナル作品「楽劇大田楽」。 企画・演出・監修＝野村万之丞	ACT.JT (アクトジェイティ) TEL/03-5766-6053 京都造形芸術大学 劇場企画運営室	未定
5/31 土	来洛座 皐月の巻 元暦元年三月十八日 源平の風	15:00開演	歴史に残る戦争の代表的な存在「源平の合戦」。中でも源平の盛衰を分けたであろう屋島の合戦を題材に「元暦元年三月十八日」より時を追いつつ、平家・源氏の言い分を能狂言舞踏で表現します。 出演：尾上青楓・片山伸吾・茂山逸平 茂山千三郎・橋本光史 ほか	京都造形芸術大学 劇場企画運営室	2/28前売開始(予定) A席 7,700円(7,000円) B席 4,500円(4,000円) 造形大生 1,500円

○スケジュールには変更の可能性があります。

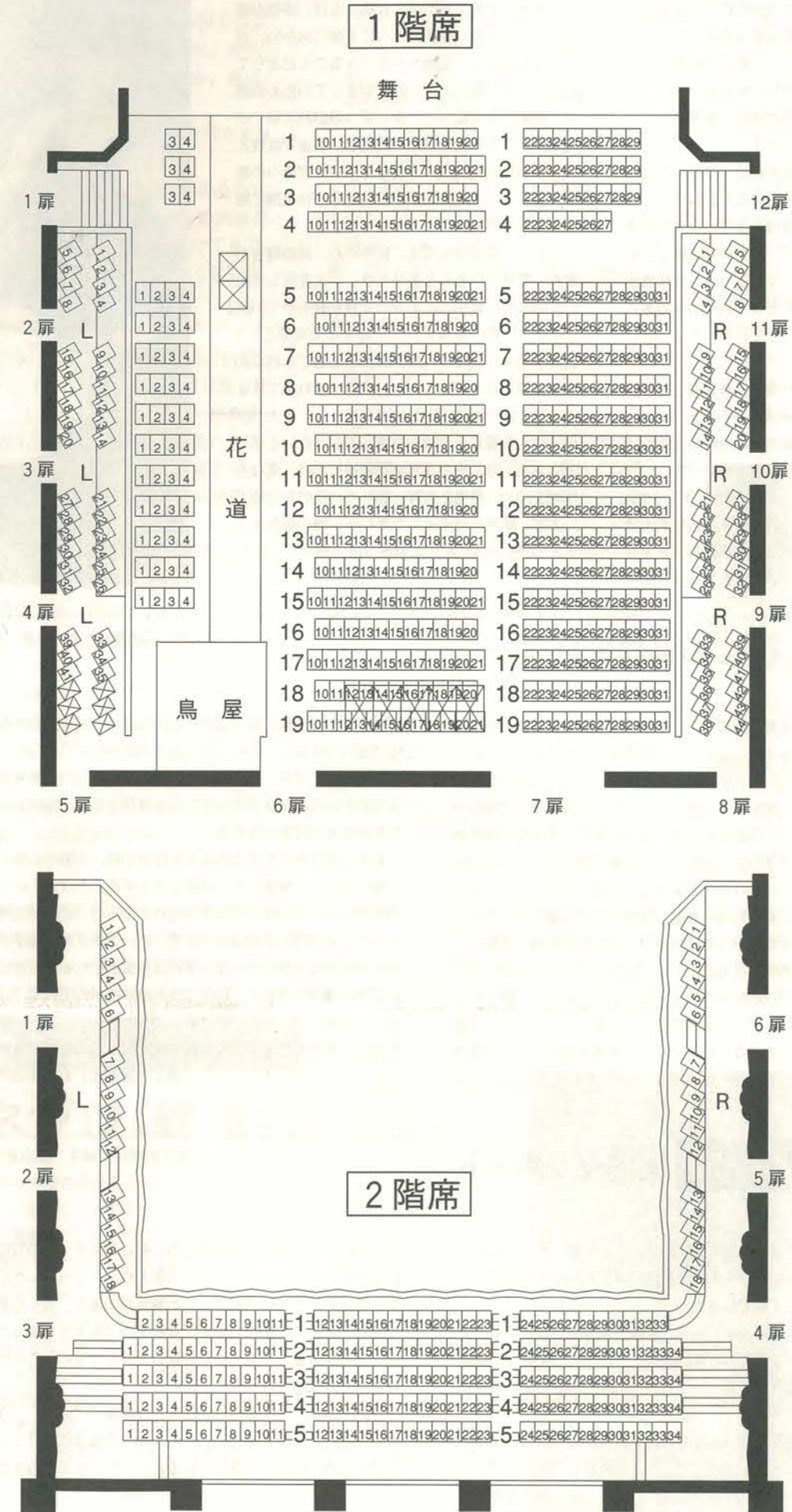
●「春秋座」は京都芸術劇場 大劇場です。

●星印(★)は大学主催公演です。

京都芸術劇場(春秋座)座席表

花道使用時	
1階	531席
2階	204席
合計	735席
	(-117席)

オーケストラ使用時
-102席



和太鼓 惠

和太鼓は「打てば鳴る」ごく単純な楽器ではありませんが、大地のエネルギーを何百年も吸収して育った樹木と、牛革を使用してあるが故に、音階もなく同じ音を再び出すことが大変困難な楽器です。しかし、技術だけで伝えられない、人間の魂を揺るがす程の「何か」があります。それは演奏者（打ち手）の心で大きく左右され、人間の感情（喜怒哀楽）がリアルに表現されるものなのです。

科学技術の発展とともに情報社会となり、人と人とのコミュニケーションが容易になりました。しかし、その反面自分の思いや感情を上手く言葉や身体を使って伝えることができず、自分の殻に閉じこもったり、爆発した時にはキレてしまうような状態が最近よく見受けられます。人としての心のふれあい、知らぬ間に置き去りにされているようにも感じます。

和太鼓に触れ、自分自身を奏でる音を通し、自分との対話、そして他人との対話をして呼吸（イキ）心を合わせていく。人の音を聞き、理解しなければ自分の音も生きてこないのが太鼓の合奏です。

1994年、「打ってみたい？」その言葉に何かを感じ太鼓の音色に何かを求め、当時の京都芸術短期大学・京都国際文化専門学校、そして京都造形芸術大学の数人の学生がつい、和太鼓サークルの発足と

『心あわせて』

なりました。自分をどう表現したらいいの？友達って何？人って信じられるの？何故会話が必要なの？礼儀って何？？？様々な問いかけ、摩擦が盛りだくさんの中、仲間とともに太鼓に向かい、自分をさらけ出し、正面からぶつかることによって初めて今まで岩のように硬く固まっていた心の殻が、薄紙を剥くように、少しずつ剥がれてゆくのです。そして素直な自分に気が付き、お金では買えない大切な友と出逢い、前向きに自分自身への挑戦ができるのではないかと思います。和太鼓に触れ、技も身体も変わってきました。

しかし、何よりも学生、彼等の心、目の輝きが変わってきていることを日々感じ、大変嬉しく思っています。瓜生山に太鼓の音色を響かせて9年目となる今、恵の部員も50名を超える大所帯となり活動しやすい面もあれば、新鮮とも感じられるような、様々な予想もつかない問題が溢れ出てきます。しかし、発足当時より掲げてきたテーマ「心・技・体」を基に、今後も精進していきたいと思っています。今、また3月卒業公演に向け、更なる団結を固め、学生たちは、個々への挑戦を始めています。彼等の情熱とエネルギー、魂の躍動を一人でも多くの方に感じて戴ければと願っています。

和太鼓研究センター所長 顧問 高木 克美



造形大生の目 『演じる高校生』レポート

おもいがけなさすぎる出来事が起きた時、それがフィクションであるならばドラマティックな展開を予想してしまう。この先、どうなるの！という展開。でも案外、現実、それほどおおげさな展開なんて見せなかったりする。近畿大会で最優秀賞と創作脚本賞を獲得したという大阪市立芸高の『愛すべき蛙たち』は、そういう面でも興味深い面白さをもっていた。家族構成は父、母、長男、長女、次男の五人家族。しかし幕が開くと、そこには四人の姿しかない。真夏の暑さに疲れ切ったような、会話の少ないだらけた父母、長女、次男の姿。一般に見る居間や食堂や台所。居間の隅に、一つだけ水槽が置いてある。訊ねてきた伯母との会話から、どうやら長男は入院しているらしいと分かるが、家族四人は何故かずっと水槽の中の蛙に気になっている。“ある日、お兄ちゃんが蛙になってしまった”という設定から生まれる展開として、この家族のとった“とりあえず世間には黙っておく”という選択は、ものすごくリアリティのある行動に思える。新聞沙汰になって大騒ぎとか、家族の誰かがショックでおかしくなるとか、考えようと思えば展

開はいくらでも思い浮かぶけれど、これほど説得力のある行動パターンは他に思いつかない。展開が何も起こらないわけじゃない。

夕食の時、父が、蛙になった長男を、知り合いの研究者の人に預けてみようかという提案を出す。でも提案は却下され、結局展開は発展することもなく淡々と日常が流れる。

おもいがけなさすぎる出来事が起きた時、人間の心情というもの複雑に駆けめぐり、絡まったり屈折したりする。だけど、その時とる行動は、意外すぎるくらいシンプルだったりするんだ、と考えさせられ、納得させられてしまった。夕飯のシーンで、テーブルを囲む椅子のうち一つの椅子だけがぽかんと空いている。それは全員がそれぞれの席に着席した時、初めて浮き彫りにされる。居間には水槽が置かれている。ひとりだけ“席替え”した長男は、この世界にいるようでいない。人間の座る椅子と、水槽の違い。そりゃ、最優秀賞も創作脚本賞も、とるのが当然の作品だと、感じた。

「演じる高校生」公演日2002年12月23日(日)

芸術文化学科2回生 勝山玉季



がんばる学生アルバイト 案内係レポート

「大丈夫ですか!？」お客様が心配そうにかけよってくる。ああ、またやってしまった・・・。「段差がありますので足元にお気を付けてください。」そう言いながら、自分がつまずいてしまう。

春秋座でアルバイトを始めてもうすぐ一年。座席表を確認しなくても、案内ができるようになった。「こちらのお席になります。」自信を持って案内すると、お客様が申し訳なさそうに言う。「あの・・・もう少し前のお席だと思んですが・・・。」

今日こそは、完璧に仕事をしようと思うのに、気が付けばいつも、じたばたしている。「学生だから・・・」と言ってしまえばそれまでだけれど、お金を払って舞台を楽しみにいらっしやるお客様に、そんな言い訳は通用しな

い。最近、他の劇場へ出かけた時、そのスタッフの対応が以前よりも気になるようになった。丁寧な受け答えや、ちょっとした心配り、スタッフの、ほんのささいな言動で、その劇場の印象が、良くも悪くもなる。

そしてそれは、私の対応が、春秋座の印象を左右するということでもある。それを自覚した時、ほんの軽い気持ちで始めたこの仕事に、大きな責任を感じるようになった。

けれど同時に、「本当にすばらしい劇場ですね。」「今日の公演とても良かった。」「また来ます。」そんな、お客様にかけていただく言葉が、以前にも増して嬉しく感じられるようになったこともまた事実である。

小猿の会の会10周年記念公演

—小猿の会師匠・藤間吉蔵先生に聞く!—

聞き手：梅 清香 京都造形芸術大学卒業。在学中、小猿の会に所属。現在京都芸術劇場企画運営室勤務。

梅 小猿の会の会の見所は？

吉蔵先生(以下、吉) うーん…困るのよね。みどころっていうよりも、キチッと踊ってるか、そろってるか。要は、変なことをしない。(笑)

梅 強いて言うなら、ほとぼる若さを見て!といったところですか。

吉 OBは卒業してからの空白があるからどこまで踊れるか。大阪からの出演者は何人か(卒業後も)稽古続けてる子がいるけど、東京組はこれから勝負。どうなるか…。

梅 先生も踊られますね。

吉 2つも。(苦笑)『七福神』はご祝儀だから…。問題は『石橋』。文殊菩薩の使者で。寂昭法師は人間だから、石橋を渡れない。悟りを開かないと渡れないから、悟りを開かせるためにきこりとなって現れる。その神々しさが出るかどうか。

梅 幕開き一発目が先生の「七福神」。

吉 (番組の)一番最初に踊るのはいやなの。緊張する。『流星』を先にもっていったらよかったわ。後見して落ち着けるから。(笑)

梅 先生が教授を勤めておられる舞台芸術学科の学生も、先生の踊りを見るの初めてじゃないですか？

吉 そう。見てないのよ。稽古しか。

梅 今回の会について、先生ご自身に特別な思い入れはありますか？

吉 春秋座はきちっとした舞台やからね今回はそれなりの覚悟はしてもらわんと。でも、よくぞここまで来てくれたな—という感じはあるわね。よく10年もったと思う。そんなに人数多いクラブじゃないしね。つぶれそうになったこともあるし、つぶそうと思ったこともあるし(笑)…でも楽しかった。いろいろあったけど…みんな(振りを)憶えへんし…(笑)

梅 (頭をかく。)先生にとって小猿の会とはどういう存在ですか？

吉 勉強になる会。自分が勉強できる。ええかつこじゃなく。小猿の会で他の稽古と違うのは、きちっと教えないとだめ、ということ。…他で手え抜いてるわけちゃうのよ、ただ学生は油断して踊るとその通りに踊る。疲れてる時の稽古の後、次見たら(その子も)疲れた踊りしてる。こわいよ。いいかげんに教えたら、やっぱりいいかげんな踊りしてる。

梅 自分でも(学生時代のお稽古のときは)今になると考えられないくらい集中して先生の踊りを真似しようとしてましたもんねえ。

吉 最後のほうは無理なもんばかり踊らせてたわ。

梅 次にお稽古する曲はこれっ、て持って来られる度にびっくりしてましたよ(笑)

吉 ニンに合ったものばかりやっていると上達しない。今回の会でも違うものをやらしてる。自分も、『石橋』は最も苦手なのよ。まして素踊りでしょう。『七福神』はパーッと踊ったらいいけど、『石橋』は物語性があるからね…。他の舞台でも、得意なものばかりやる人はやっぱり上達しない。

梅 これから小猿はどうなっていくのでしょうか。

吉 小猿の展望?第10回の会が終わってからね。学生には体操みたいでもかまわないから素直な踊りをして欲しいと思うわ。きちんと踊ってくれる人で小猿の会が続いて行ったらいいなって思います。



藤間 吉蔵(ふじまきちぞう)
日本舞踊・藤間流師範。藤間勘吉郎に師事。舞踊家としての活動の他、市川猿之助門下の振付・指導でも精力的に活動。京都造形芸術大学助教授

先日、春秋座で授業を行われていた市川猿之助先生が、吉蔵先生のことを「鬼の吉蔵」とおっしゃっていました。それはもう、お稽古の日は朝から胃が痛くて授業どころではなく、歩きながら踊ってる状態…。だけど、どんなに怒られても辛くてもお稽古嫌いにはならない。それだけの魅力が吉蔵先生にはあるんですね。今回出演する現役の学生は、みなさんも一度くらいは春秋座で出会っているはず。なぜならいつも皆さんをお迎えしている学生スタッフでもあるからです。普段公演を支えてくれている彼らが今回は舞台の上から皆さんをお迎えします。是非この晴舞台を見に来てあげてください。

舞台の素

ゲネプロ(総稽古)の巻

私達裏方は本番の舞台を見るができない。

少々さみしく思うこともあるが、今日のこの舞台!!と楽しみに来られるお客様に心地よく観劇していただくためには、そんなことはあってはならない。しかし、裏方で働く私達にも舞台に触れられるまたとない機会がある。

ゲネプロGeneralprobe(独)という、初日の直前に本番と全く同じ手順で行う総稽古だ。(全ての公演にあるわけではなく、あったとしてもあまり落ち着いてはみることはできないが、...)案内をしてきている学生アルバイト達にも、このゲネプロを見学してもらい、舞台進行の妨げにならないように、暗いシーンにはドアの開け閉めを極力少なくするなどの、心使いをしてもらっている。

稽古から本番まで全ての時間が計算され、お見事!という舞台もあれば、最初から最後までハラハラするような進行の時もあるが、お客様が入り幕が上がるとさすがプロ!と思わせる。このように劇場の様々な面を見るというのなかなか乙である。

劇場スタッフ 中山 彩

